**白山国立公園**

<冊子/外側ページ>

<表紙>

**白山国立公園**

<イントロページ>

**白山**

**聖なるものと自然とが交わる山**

白山国立公園の中核は、標高2,702メートルまでそびえる白山です。白山国立公園は、石川、福井、岐阜、富山の四県にまたがっています。この山は、富士山や立山と並び、日本を代表する霊峰のひとつでもあります。「white mountain」という意味の白山は、冬の間厚い雪の層で覆われます。春になると雪の間から緑の芽が顔を覗かせ、やがて夏中色とりどりの高山植物が花を咲かせる草原が現れます。秋には、森は燃えるような赤、オレンジ、黄に色づいた葉で彩られます。

白山は、泰澄（682～767年）という僧侶が717年に初めて登頂して以来、霊峰とされてきました。泰澄は、仏教、神道、山岳信仰の教えを取り入れた修験道という宗教の修行者でした。修行者は多くの場合、霊峰で修行や儀式を行います。神聖な山と修験道の繋がりを示すのは、白山三峰のうち一番高い御前峰（2,702メートル）の山頂にある白山比咩神社奥宮です。奥宮祈祷殿は、室堂の山小屋の正面にあります。

天候が良ければ、眼下に「雲海」と呼ばれる一面に広がる見事な雲の層とかなたにそびえる北アルプスの山々の景色を目にすることができます。

白山は火山で、最後の噴火は1659年に起きたことが分かっています。目立った火山活動は見られないものの、現在も山麓にある数多くの温泉の熱源となっています。

白山には多様な生態系が繁栄しています。白山を登る途中で、ブナとダケカンバの森を通ります。より標高が高い場所では木々がまばらになり、かわりに、夏を通して色とりどりの花を咲かせる高山植物が現れます。これらの花の中にはハクサンコザクラ（学名：Primula cuneifolia Ledeb. var. hakusanensis）やハクサンフウロ（学名：Geranium yesoemse var. nipponicum）など、白山にちなんで名付けられたものもあります。イヌワシ、キツネ、ツキノワグマなど、多くの哺乳類、鳥類、両生類がこの公園を生息地としています。1980年、白山はユネスコの「人間と生物圏計画」（UNESCO Man and the Biosphere）の自然保護地に指定されました。

<山の天候、気温、日の出・日の入りの時刻ページ>

気温は、過去数年間の平均気温に基づくものであり、変動する可能性があります。登山の前には、必ず最新の天気予報をご確認ください。